

令和6年度 第1回 ふくしま元気トークまとめ



【開催概要】

日時	令和6年8月24日（土） 午前10時30分～正午
テーマ	わたしたちが住みたくなる福島市
場所	多文化共生センター Yuiverse(ユイバース)
出席者	\移住者、市外・海外・市内出身大学生の皆さん/ (1) 穂積真人さん (4) 岩崎美怜さん (7) 佐藤響さん (2) 阿部成美さん (5) 黒須大輝さん (8) 片平豊さん (福島市) (3) 古川智也さん (6) 宍戸菜々美さん (9) グエン ティ フォン トウクさん 木幡浩 福島市長

【1 市長あいさつ】

今日はふくしま元気トーク、ご参加いただきましてありがとうございます。

「わたしたちが住みたくなる福島市」ということで、移住者の皆さん、外国からの皆さん、そして大学生の皆さん、市外から来た人も市内の人も、いろいろな視点から話をしてもらえるとありがたいなと思っています。

また単に一方的に話すより、みんなで話すことで新たな気づきが皆さんの中で起きてもらえるとありがたいし、こういったことが1つの繋がりになれば嬉しいなと思っています。



【2 主な発言内容】

(1) 福島市の印象、良いところ

○穂積 真人さん

- ・ふくしまシティハーフマラソンがいいなと思っていて、第1回から参加させていただきました。それをきっかけにマラソンを始めて、自分が走るのももちろん楽しいんですけど、沿道で友達とか知り合いが応援してくれて、こういう触れ合いがあるのはいいなと思いました。福島市に1つ大きなイベントが追加されたのがすごくハッピーだなと思いました。
- ・アウトドア、キャンプ、スキーには車で1時間ぐらいで、温泉には車で20～30分ぐらいで行けるのは改めて恵まれた環境だなと思っています。

○阿部 成美さん

- ・福島の実物や野菜が美味しくて、手頃な価格で買えるっていうのがすごく身に染みっていて、本当に魅力だなと改めて思っています。
- ・いい意味で狭いというか、自分の興味のある、例えば子育ての遊びとかそういうことに関して動くとき何回も同じ方に会うので、どんどん人との繋がりが濃くなり、どんどん繋がっていきなっていく感じが福島にいるとあります。より濃く人と繋がれるのは福島の良さなんじゃないかなと思います。
- ・東京へのアクセスのしやすさがあるので、福島市でお仕事をしている方も日帰りで出張に行きやすいのはすごくいい点なんじゃないかなと改めて思っています。

○岩崎 美怜さん

- ・フルーツが美味しいなと感じています。
- ・自然がすごく豊かだなと感じていて、浄土平や花見山や信夫山などに、市街地からすぐに行ける自然がたくさんあるなっていうのがとても印象深いです。
- ・毎週日曜日に駅前で歩行者天国を行っているのがとても印象的で、自分の住んでいたところでは、駅前の道を使って歩行者天国して地域交流をするようなイベントが思い出される限りないので、そういうところが素敵だなと感じています。

○佐藤 響さん

- ・個人店（小さい飲食店）が凄く多くて大好きなところですよ。

○穴戸 菜々美さん

- ・県北市町村の中では、福島市は都会だなということがあって、福島市に遊びに行こうっていうようになります。流行りの店を入れるのもいいですが、もっと地域に根づくような素敵なお店がどんどん入ってくれたらいいなと思います。

○グエン ティ フォン トウクさん

- ・外国人にとってもすごく優しくしてくれてありがたいなと感じます。
- ・スキーやこけしの絵書きとか福島の特別な体験ができました。

市長 ○ハーフマラソンは福島の街中で開催する大きな大会で、おかげさまで今年は、ハーフマラソンの部の全国3位に評価されました。それだけ沿道の応援があたたかいという感じがしています。

○定例的に歩行者天国をやることで、行けば何かやっているなという状態を作ろうと思って、冬の寒い時期以外はやるようにしています。なお、令和6年10月には、吾妻通りで「ほこみち」という、新しい取り組みをやります。これは既存の道路も使って、歩道を歩行空間でありながら、新しい街の居場所空間になるように、学生さんなどに企画をしてもらっているので、ぜひ参加してみてください。



(2) 住みたくなる福島市になるために

○穂積 真人さん

- ・仕事の選択肢が限られているのが、Uターンして来るのに時間がかかった理由です。コロナ禍を機にフルリモートの会社が出てきて、都内の仕事をしながら福島に戻るという選択が今できたので、フルリモートで働きながら生活していますが、仕事の選択肢が福島市内にもたくさんあると、若者が流出せずに良いまちになっていくんだろうなと思っております。
- ・自分はマーケティングとかブランディングが専門なので、市内で探しはしたんですが、あまりないな

という印象を受けました。

○阿部 成美さん

- ・仕事の選択肢が少ないなっていうのは私自身も感じていて、子育て中や介護中の方が、柔軟に自分の働きたい時間を選択できたり、私自身も今半分ぐらいリモートをさせていただいていたので、週の半分は在宅勤務、週の半分は出社するみたいな柔軟な働き方も、個人に合わせて選択できるような企業がもっと増えるといいなと感じています。
- ・未就学児を抱えている親の立場とすると、小学校に入ると、小学校の集まりや地域の育成会などがあるので地域の方の顔がどんどん見えてくる印象ですが、未就学児のうちだと、特に地域の方の顔が全く見れなくて。何か災害が発生した時などにも、どこに頼れる人がいるのかがちょっと見えにくい現状があるかなと思っているので、より近くに住んでいる人との関係性を増やしていけるような取り組みがあるといいなと思っています。

○古川 智也さん

- ・自然とか温泉とかがいいなって思うんですが、温泉に行き始めたのが大学生になって自分の車を持つてからなので、正直車がないとなかなかっていう印象もあります。
- ・いろいろな人が利用できるような、フリーWi-Fiのスペースがあって、休んだり勉強したり、友達と話したりっていう空間がもう少し面積的にあるといいなと思います。

○岩崎 美怜さん

- ・車を持っていないので、イトーヨーカドーがなくなってしまったことによって、お肉や生鮮食品を手に入れる場所がなく、自炊の回数が減ってしまって、外食やコンビニ弁当が増えてしまっています。野田のヨークタウンに行くことはできるんですが、駅の東側に学校があって、学校から帰る途中に買い物できていたので、スーパーが駅前にあるととてもいいのかなと感じています。

○黒須 大輝さん

- ・阿武隈急行で学校に通っているのですが、最近ダイヤ改正があり、宮城までの終電が午後9時28分になってしまいました。JRも終電が早いので、一緒に働きかけてほしいと思っています。
- ・学生の居場所とかコミュニティーの場所が非常に少ないなと感じていて、大学のサークルや学生団体とは別に、学校の力を借りずに学生だけでやれる団体があってもいいのではないかと。例えば、企業と学生がコラボして一緒にやる事業や、ワークショップを学生だけで行えるような環境づくりがあると学生も動きやすいのかなと。困ったときだけ若者ではなくて、常に若者が活躍できる場があると、学生もののびのびとできるのではと考えています。

○穴戸 菜々美さん

- ・店員さんとの挨拶がないとか、無愛想な人が多いなってちょっと感じてしまったことがあったので、コミュニティーとかイベントを増やして、そこから人と人の素敵な繋がりをもっと増やしたいなと思いました。

○佐藤 響さん

- ・例えば果物にもっと力入れてくとか、何かに集中してナンバーワンを目指す、特化していくことが大事なのかなと思いました。
- ・福島大学は福島県唯一の国立大学で、金谷川地区には大学生が約4,500人いますが、大学に来て、みんな「何もない」という印象が先行しちゃって、とても良い市なのにすごくもったいない。学生のうちに楽しい経験とか、そういうのがあると、もし福島市外出身でも、もう1回福島市に戻ってこようかなと思うきっかけになると思います。ただ、そのための活動をしています。補助金は福島市のまちなか限定だったため使えなかったです。
- ・大学生は基本的に住民票を自分の住んでいる場所に置いていないので、アパートとかでも回覧板とか回ってこないですし、地域の住民さんと学生さんと相互に助け合うみたいな、そういうスペースみた

いなあればいいのかなと思いました。

○片平 豊さん

- ・自分は進学を選択肢として美術系の大学も入れたかったのですが、県内に美術系の大学が福大の芸術コースしかなかったので、美術系の大学を福島県内に1つ増やして欲しいなと思いました。美術系の大学を増やせば、小学生のなりたい職業ランキングで、イラストレーターとか、ゲームクリエイターなんかが高順位なので、若者の県外の流出も防げると思いますし、それに付随してゲーム会社も作れば、その職業として福島県に留まると思うので。あとイベント会場とかライブ会場とかも少ないと思うので増やして欲しいなと思いました。

○グエン ティ フォン トウクさん

- ・福島ではすごくイベントが多いのですが、どれくらいみんなに伝わっているか、知っているかって。私たち留学生であれば学校からの知らせとかがあるけど、企業側の実習生とかは、わからないかもしれないので企業と関連してイベントとかのお知らせをしてもらうのもいいかなという思いがありました。
- ・イベントに参加するときは、SNSにいい写真を載せたいので、綺麗な写真を撮れる場所とかを作っただけであれば、みんなも記念写真を残せるんだなって思って楽しめるかと思います。
- ・外国人が部屋を借りるには、代理人とかがいなくてなかなか借りられない現状があるので、対象者が気軽に入れる部屋ができたらうれしく思います。

市長 ○リモートワークというのは、仕事の内容からすればできるんだろうと思うんです。そういう働き方に転換するためのデジタルに対する意識が、福島市ではまだ少ないのかなというふうに思っています。我々も、企業の仕事の中身だけじゃなくて、働き方のこの時代に変化に合わせた対応というのをもっと働きかけなきゃいけないと思っています。

○地域の人達はどんどん若い人たちに入って欲しいとは思っているんですけど、実際は入ってくれないって悩みを実は抱えているんですね。一方で、子育て世代の人たちも逆に入れないというのがあるので、接点があって入っていけると良いのかなと感じました。

○自由に使えるスペースということであれば、今構想している再開発事業では、フレキシブルホールを作ります。その手前に「まちなかりビング」とか、あとは大屋根広場なんかもみんながたむろできるような場所にすつものりなので、使い勝手がまた増えてくるといいかなと思います。

○福島駅西口周辺にスーパーみたいなのができないかなということいろいろ働きはかけている状況ですし、福島駅西口からヨークタウンとかを通るようなバスルートを作ろうと思っています。

○いろんなネットワークとかいうのは、単に人が作ったものに参加しているだけとか、それに来場して利用しているっていうのは多分広まらないと思うんですよね。多分、自分たちが企画して運営するというのが一番よいです。福島市では、まちなかでやるイベントに関しては補助金の仕組みもありますので、是非そういうものを使って、自分たちで企画して欲しいなと思っています。

○福島の人の気質として、あまりとんがろうとせず、一部分で収まっちゃってる。例えば果物にしても、生で食べることばかりだったんですが、いろんなスイーツや企画を作ろうと、ピーチホリデーをやって、徐々に特色出していこうとしています。その場合、特色のあるものを、それぞれ太くしていくということで面白くできるかなと思います。ちなみに最近ではUFOの町もすごく注目を浴びているので、あれをもっと大きくしたいなと思ってます。

○金谷川は福大が移転してから今まで何もやってこなかった。学生街って、街自体が思い出になるんですが、これでは福大の皆さんに福島のことを懐かしんでもらえないよなと思って、金谷川の都市計画区域の中になりますが、初めてお店を出すための補助制度を作った

んです。我々はそういうのできるだけ応援をしたいという気持ちですので、よくコミュニケーションをとって、ぜひ使ってください。

- 回覧板を回そうと思えば、大体学生さんたちこんな役に立たないじゃないかと言われると思うので、何らかのコミュニケーションがとれるよう仕掛けを、デジタル中心に考えなきゃいけないのかなと思います。
- 情報が伝わらないっていう人に限って自分から取ろうとしてないケースが結構多いんですよ。だから、そこは両方が努力しないと。出す方もうまく工夫するし、受け取る方もそれなりの意欲を持たないとうまく取れないと思っているので、例えば検索する時に、うまくヒットするような取り組みは、我々としてもやっていきたいし、学生さんたちが気軽に情報入手できるような、仕掛けを作っていければと思います。
- 子どもが減っている中で大学を増やすのは難しいと思うので、学院大が地域マネジメントに切り換えたみたい、既存の学部なんかをいろいろ見直して、大学自体が改革をしていくということも大事だと思うんです。
- 子供たちが減ってる中で大学増やすというのは非常に難しい状況だと思います。ただ、デザイン系の分野とかイラストは凄く人気がありますよね。若者をまちなかに置くためにも、専門学校を誘致したいなと思っていて、今後そういう流れを受けとめるようなものは作っていきたいと思います。
- デジタルを活用した様々な技術や人材養成の場としては、デジタルハリウッドが駅前にできています。これまでのふくしまロケツーリズム活動などでの繋がりを生かして、人材育成や、映像、クリエイターの分野に入るようなものは、ぜひ集積していきたいと思っています。
- ユイバースでも外国人向けの仕事の情報をお知らせできるように取り組めないかなと今いろいろやっています。
- 外国人の皆さんが、どのように住まいや働き場を見つけるかというのいろいろ調べながら充実させたいと思います



(3) 福島市に充実させたい仕事

○穂積 真人さん

- ・フルリモートで働ける人って、今、首都圏にも全国にもいると思っておりまして、フルリモートで働ける人の移住地として、福島市が他の自治体と比べてときに大きなメリットを作れたら戦えるポイントになるんじゃないかなと思ってます。
- ・1時間半で都内にアクセスできるっていうのはすごいメリットですし、だけど、普段は自然にアクセスがいい住みやすい街で過ごせるっていうのはすごく良い選択肢だと思うので、何かフルリモートで働ける人が住む理由を自治体として作れたら戦えるかな、人を呼び込めるかなとは思っています。

○阿部 成美さん

- ・福島の果物や野菜など魅力溢れるものを守っていくために、そちらの方で人材が不足しているという面もあると思うので、どう若い世代の方を巻き込んでいっていかけるかを考えることが重要なかなと感じています。ただ、農業に従事するにあたっては、半分在宅にするとか、フレックスにするとか、そういうのもなかなか難しいなと思うので、人数を組み合わせることで柔軟な働き方を取り入れ、福島の魅力溢れる農産物を守っていくような取り組みができるといいなと思っております。

○古川 智也さん

- ・作業療法士というカリハビリの段階では、割と福島県で就職先は多いのですが、お給料面で少し低いので、関東とかに行く子が多いです。仕事としては、学校コンサルという分野がありまして、発達障害があるお子さんが、学校でより良く生活できるための支援として、アメリカでは保健室の横に作業療法室があるぐらい注目されてる仕事なので、ぜひ福島でもその領域に力を入れていただけたらなと思っています。

○岩崎 美怜さん

- ・診療放射線技師は、大きい病院とか総合病院を目指してしまうというのもあると思うんですけど、採用枠が1人2人なので、倍率が上がってしまうのがほとんどで、そういうところでは就職難民になってしまう人もいます。
- ・福島県内に診療放射線技師の学校がないっていうのもあって、比較的県内での就職はしやすい状態ではあります。

○穴戸 菜々美さん

- ・同級生の大半は県内就職ですが、友達同士でライバルになるっていうことが結構多かつたらしく、そういうところを見ると就職先もやっぱり少ないのかなと思いました。
- ・マイナビとか、アプリを見ている、限られた企業だけが出て、実際探せばもっとすてきな企業はあるけど、情報を得るのが簡単なアプリとか、学校に来る求人だけになってしまうので、いろいろな職種の情報を得られるような場所があると良いのかなとか思いました。

市長 ○企業に対するいろいろな誘致策はやっていて、特に街中でも立地できるように思っています。さらには、誘致企業だけに終わるんじゃなくて、地元と交流することで地元の仕事が増えるような、できるだけそういった取り組みはしていきたいなと思います。

○農業は、何よりも後継者を育成してかなきゃいけないわけですね。それから、いろいろな働き方がありますが、やっぱり本業でやる人は、なかなかそうはいかないのが現実だと思うんです。ただ、サポートする人が入ってくるとずっと継続しやすく、福島市でも「デイワーク」というアプリを使った仕組みでマッチングして、学生さんなんかアルバイトで農業を手伝えるんです。

○例えば、デジタルの仕事をしている人たちが、ちょっと気分転換に週に何回ぐらいは農業してもらえとか、そういったような仕組みも作っていく必要あるのかなと思っています。

○何よりもまず農業で食べていけなければいけないので、ただ生のまま出すのではなく、付加価値をつけて、農業をやってる人たちがより高い収入を得られるようにしていくのが大事だと思うので、そちらの方も重視してやっていきたいと思っています。

○基本的にハローワークがあって、それでまた学校にも行くんだと思うんですけど、ネット系でいうと、まだ福島市内の事業者がネット系に慣れてない部分があるので、それであまり情報が出されていない面があると思うんです。それでは、学生さんたちに対して全然届かないことになっちゃうんで、そこはもっと改善をするように経済界に働きかけていきたいなと思っています。

